

<講演会資料>

15:00~16:00 基調講演（特別講演）

『医療現場が求める臨床検査技師のあり方

— 多様なニーズに対応できる職能人としてのスキル —』

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事 副会長 横地常広先生

現在、国が進める持続可能な社会保障制度を確立するために様々な改革が進められているが、その中で最も重点に置かれているのが、「病院完結型」の医療から、地域で患者を支える「地域完結型」の医療への転換である。「病院完結型」の医療の中で、我々、臨床検査技師は中央検査室に多量の検査を集約し、精度保証された検査データを迅速に報告することに専念してきたが、医師、看護師不足による業務の変化、地域完結型医療への転換による医療提供体制（機能分化）の促進などにより、現状の医療ニーズを的確にとらえるためにも多職種連携医療を念頭に置いた検査室のあり方を施設ごとの状況に合わせて検討する必要性を感じる。

医療情勢が大きく変化する中で、日臨技は「今後の臨床検査技師のあり方」について広く会員に情報提供することに努め、「検査説明・相談のできる技師育成」「チーム医療推進事業」「病棟・在宅における臨床検査技師の役割」などの活動を通して、多職種連携医療を担う職能団体の一員として、国民の安心安全な医療提供に貢献するために多様なニーズに対応できる臨床検査技師の育成に努めている。臨床検査技師の養成に向けて、今後あるべき臨床検査技師の姿、多職種連携医療が進む中で職能人として、専門性を生かし、関連職種と協働、連携できる人材育成が求められている。超高齢化社会を迎え地域における福祉介護等の関係機関との連携により、包括的かつ継続的な地域完結型医療を担う医療スタッフの一員として果たす役割は大きいと考える。

16:00～16:50 同窓生報告

## 『病院に就職してこんな職歴も・・・』

東京医科歯科大学 医学部附属臨床検査技師学校 4回生  
（公財）心臓血管研究所附属病院  
経営企画部システム担当部長 総務部情報システム課長 青木洋一氏

検査技師として病院に就職すれば、普通なら検査部内でのローテーションはあっても最後まで検査部に所属し、技師としてその道を究めるということが目標になるかと思えます。

1978年に就職して以来、転職経験は無く40年近く今の病院に勤務しています。ただ、その職歴は病院に勤務した臨床検査技師とはひと味もふた味も違った経験をしてきました。こんな仕事も出来ますよとお話させていただきます。

## 『転機の捉え方～医科歯科から続く道～』

東京医科歯科大学 医学部保健衛生学科検査技術学専攻 9回生  
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 医薬開発本部 CDMA  
フィールドベースドメディカルアフケアズ部  
オンコロジー領域 MSL グループ 長谷川真紀氏

改めて振り返ると医科歯科の保健衛生学科に入学してからもう20年が経過しています。この20年、多くの色々な人との出会いがあり私の人生を豊かにしてくれていると感じます。

医科歯科から始まり、企業での創薬研究の機会、そして想像もしていなかった転職。今回の転職でも新たな出会いが多くあり、そしてこれまでに出会った人との繋がりが更に強まっています。いつもは優柔不断な自分がそれぞれの転機においては驚く程即決しており、医科歯科で過ごした10年間で幅広い可能性を生み出し背中を押してくれているのかもしれませんが。今回はこのような機会に自分の20年を振り返りつつお話しできたらと思います。